



第528号 令和4年7月1日
発行所 京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601-1 こどもみらい館2階
TEL (075) 256-0351
FAX (075) 241-3568
発行人 杉本英造

教育委員会との懇談会報告

会長 杉本英造

7月2日 こどもみらい館にて3年ぶりに、教育委員会との懇談会を開催、学校医会から20名、教育委員会から教育長はじめ4名の参加でした。

協議案件

(1) コロナ対策（濃厚接触者の取り扱い 学級閉鎖基準）、マスクの着用や熱中症予防、健康診断方法や感染対策について

これまでに京都市立学校で約19000人の園児・児童生徒と約1300人の教職員の感染者で、約2000/4000学級閉鎖がありました。学級閉鎖基準は校医ニュースで紹介してきました。濃厚接触者の自宅待機緩和に向け、エセンシャルワーカーだけでなく、3月17日文科省通達で乳幼児を除き抗原キット使用し4日目、5日目に2回施行し、陰性であれば登校可能となっています。今後、コロナ感染だけでなくインフルエンザ流行予想もあり、感染対策はもちろん、日々の健康状態確認、手洗い、換気を励行していきます。これまでに定期健康診断が契機となった感染症報告はありません。また、感染拡大防止に有効とされているマスクの着用と、熱中症の対策について、両方を推進していくことは非常に難しいことですが、マスクについては校医ニュース6月号で紹介した国の勧告に従いますが、マスク姿に慣れて素顔を見せるのを嫌がる若者が増加している報告もあり、状況に応じたマスク着用が大事です。

(2) 腎臓相談事業について 一次・二次検尿陽性者の三次検尿未受診について

学校検尿で一次・二次陽性例の内、三次検尿報告書・精密検査報告書が提出されていない例について教育委員会を通じて学校に確認していただいておりますが、未受診が多いのが現状です。（血尿蛋白尿例では R 3年春 3/8 秋 5/9 尿糖例では 春 9/39 秋 10/42）疾患の早期発見は大事なので、

家族への意識改革、啓蒙を行っていただきます。

報告案件

(1) 運動器検診 最近の側弯症の発見数 コロナ感染禍の2年間

四肢（運動器）の状態の検査については、四肢の状態の検査問診票に○印がついている児童生徒等の検査を行っているが、四肢の状態の検査が施行された平成28年度から7年目を迎える現在では、保護者からの回答欄で、気になるという申し出も減ってきたように感じている。姿勢注意～令和1年：3289、2年：3300、3年：2926名、受診勧告～1年：904、2年：751、3年：707名 実際に専門医受診数は不明だが、脊柱検査について、運動器検診前の平成27年～姿勢異常：359、脊柱側弯：33名と比較すると、健康診断実施時に内科健診と脊柱検診を全員実施している効果はでている。

(2) 改正された学校保健安全法で明記された健康調査の内容、実施状況、活用について。

健康調査票を活用して、学校医と情報共有。スクールカウンセラーの導入、発達症の二次障害に対する教員へ研修、理解を深める活動を継続する。総合支援学校へは精神科医を配置、普通小中学校へも児童精神科医に学校精神保健への協力を担ってもらう道を検討していただく。

(3) 普通学級在籍の弱視児童生徒について

普通学校に、弱視、ロービジョン児童・生徒が入ってくる例があるので弱視児童が学びやすい対策を取っていただく。

記録的な猛暑や豪雨、コロナ感染第7波などなかなか平穏な日々が送れませんが、会員の皆様のご健勝をお祈りし、今後とも学校医活動よろしく願います。

第 73 回指定都市学校医研修会

課題別協議会 第 1 分科会【健康教育】WEB 参加報告

太秦小学校医 井本 雅美

協議題：生涯にわたり主体的に心身の健康を保持増進する力を育む健康教育

主旨：生涯にわたり主体的に心身の健康を保持増進するための資質や能力を育成するための健康教育のあり方について協議する

協議の視点：○健康課題を解決するために主体的に取り組む能力を育てる健康教育について

○学校、家庭、地域、関係諸機関との連携による効果的な健康教育について

口頭提言題及び提言者

No.1 「効果的な健康教育を提供するための、学校医と学校とのよりよい関係の構築について～学校医も学校保健の仲間です～」

横浜市医師会 水谷 隆史

No.2 「名古屋市における学校歯科保健教育の取組」
名古屋市学校歯科医会 会長 伊藤 裕一郎

No.3 「自らの健康と安全に関心を持ち、保持・増進ができる児童の育成
～教職員間の連携を深めた指導を通して～」

京都市立鷹峯小学校 養護教諭 山脇 柚佳里

No.4 「神戸市におけるフッ化物応用事業の取組み」
神戸市歯科医師会 山本 哲也

No.5 「北九州市薬剤師会の健康教育に関する取組」
北九州市薬剤師会 吉村 順二

WEBで視聴しましたが、会場のマイクの不具合により、殆ど聞き取れない、チャットでは発表に関する書き込みはなく、「マイクの設定はどうなっているのか？」など聞き取れないことに関することばかり、という状況。確かに視聴はかなり苦痛でした。皆さん丁寧に準備された発表だけに、とても残念に思います。発表内容については抄録をご参照ください。毎回感じることはありませんが、1演題の発表時間設定が長いなぁ、と思います。焦点が定まりにくいのもう少しコンパクトに目的と結果がわかりやすいものになることを願います。

最後に、指導助言者による指導講評があり、タイトルは「学校での虐待の予防と対応」、発表者は熊本大学病院 新生児学寄付講座 特任教授の三淵 浩氏でした。①熊本大学医学部附属病院での虐待症例の提示 ②熊本大学附属病院CPT(Child Protection Team)の活動の現状・役割 ③学校や健康診断における虐待早期発見の視点 ④安全のためには先手(1次予防)、早期発見・早期保護(2次予防)、後手(3次予防)だけでなく、学校における教育が重要である、などの内容でお話されました。

第 73 回指定都市学校医研修会

課題別協議会 第 2 分科会【保健管理】

川岡東小学校医 山内 英子

第 2 分科会の協議題は子どもの健康の保持増進を図るための保健管理である。子どもの健康課題が多様化・複雑化する中、子どもの健康の保持増進を図るための保健管理の在り方について協議された。

初めに「コロナ禍における感染症予防の取り組み～ニーズに合わせて「今」できることを考える～」
千葉大学教育学部附属小学校養護教諭 高橋青衣氏

登校が再開される前から検討会を行い、1日の流れのシミュレーションを行う中で、何が問題となるか、またニーズに合わせた対応ができるように工夫

をし、楽しみながら予防を学べるような動画作り、登校に向けてのお願い動画作り等の取り組みをされている。

2つ目は「特別支援学校における定期健康診断の手引き—配慮を要する子どもたちのために—」

川崎市立田島支援学校桜分教室養護教諭 宇條恵理氏

特別支援学校においては健康診断マニュアルに沿って健診を実施するには難しい現状がある。初めて特別支援学校に勤務する養護教諭から、健診時の配慮や工夫を聞かれることが多いために、初めて着

任した養護教諭に役立つ手引きを作った。視力検査は絵カード、心電図検査は練習キットを用いる、校医の検診では一人ずつ入室してどの体位でも診られるようにする等。今後は個人の健診での段階的な目標設定をして行きたいとのことである。

3つ目は「自ら健康について考え、望ましい食生活を実践できる児童の育成を目指して」相模原市立上鶴間小学校栄養教諭 川村法子氏、同市立南大野小学校管理栄養士 高橋順子氏

児童の発達段階に応じた食育を実践するために、低・中・高学年の3グループに分かれて活動した。低学年では、おやつを食べ方を考えること、献立から地域の行事や郷土食を知ること。中学年では健康に良い1日の生活、給食時間に持ち運びできる教具作り。高学年では、みそ汁の秘密を知ろう、家庭科・社会科等の教材や給食時間に活用できる教具作り。いずれも興味を持って学んでもらえたが、継続するのが難しいことを実感したと。

4つ目は「子どもが安心して過ごせる学校保健活動～食物アレルギー対応に関する校内体制づくりを保健教育を通じて～」

岡山私立吉備小学校養護教諭 北原章江氏

全ての児童生徒が給食時間を安全に、かつ楽しく

過ごすために、マニュアルに基づく対応の徹底、教職員に対する研修の充実、関係機関との連携体制の構築等、各校での実践や取り組みについて共同研究を行った。すべての教職員が緊急時に対応するための体制を作り、それぞれの役割分担をはっきりさせ、個別指導も行い、継続的に健康教育を進めていきたいということである。

5つ目は「学校と行政が連携した感染症対策～新型コロナウイルス感染症の対応を通して～」

熊本私立桜木中学校校長 香山悟氏

新型コロナウイルス感染症対策は日々変化していく状況をうけて、教育委員会、教育現場の取り組みをそれぞれの立場で行った。教育委員会としては濃厚接触者の調査や検査、自宅待機期間の対応等に学校間の差異が出ないようにする必要がある。また感染に伴う人権への配慮も重要な中、感染拡大していくにつれ、マンパワー不足が出てきた。学校現場では、授業や行事の実施についての課題が多かった。感染者の有無により学校間でも認識の違いがあった。感染者の情報が把握できないことも問題である。今後に向けてこれらの課題を整理し、できる対策を確実に実行することが求められる。

第73回指定都市学校医研修会

課題別協議会 第3分科会 【心の健康】

西京高等学校医 杉本英造

協議題：子どもの豊かな心を育てるための教育活動の支援のあり方

1. スクールカウンセラーとの協働による心の健康教育 ～しなやかに生きる力をはぐくむ「こころとからだの時間」～

市立札幌開成中等教育学校

こころのつぶやきを見直すチャレンジ：Aフレンドクエスチョン：友達だったらどうするかな？ Bチャレンジ・ザ・ワード：気持ちが軽くなる言葉に変える Cリラックスシンキング：体を温めてから、おいしいものを食べてからつぶやこう まず一呼吸おいて。

他者と交流、相談し多くの選択肢を得て、しなやかに生きていく術を得てほしい。

2. 健康な生活習慣を目指して主体的に取り組む力の育成

仙台市立南吉成中学校

健康：望ましい生活習慣が心身の健康をつくる
体力：時間・場所・道具の確保を手がかりに意欲的な運動を目指す（フィットネス器具の設置 トップアスリートの指導

食育：バランスのとれた食事が健康な体をつくる

3. 小中一貫ですすめる健康教育

静岡市立清水第二中学校

静岡型小中一貫教育グループ（静岡市清水区の小学8・中学4校）を4つのグループに分け自己肯定感向上・メディアとの上手なかかわり方・性教育・不登校など心の健康について研修した。

4. 自立・自律への支援～ユニバーサル江南ピア・サポートで笑顔になろう～

浜松市立江南中学校

全生徒の3割が外国籍で学習言語獲得の遅れ、心の基盤になる過程の多様化、複雑さがある。ピ

ア・サポート（相互の人間関係を豊かにする学習を通して仲間を思いやり、支える実践活動）を導入し「聞く力」「伝える力」を向上させ、人とつながって楽しい気持ちが人間関係をよくする。

5. 心のセルフケアができる生徒を育てるために～レジリエンスの強化を目指して～

堺市立泉ヶ丘東中学校

落ち込んだ心の回復力レジリエンスを育てるための取り組み。体調不良の原因、来室傾向を把握し心の不調と改善法に気づく契機になる。折れない心を持つだけでなく、折れても立ち直る心を育む。コロナ禍で不安・緊張・体調変化などストレスの多い環境でレジリエンスを高めることは大事。

第73回指定都市学校医研修会

課題別協議会 第4分科会 【地域保健】 視聴後報告

桂坂小学校医 守上佳樹

①さいたま市立新和小学校 教諭 太田先生
未来をたくましく生きる、食べる事大好きな新和っこの育成

実態：豊かな自然、小規模校→小学校における食育の研究は「生きる源を育むこと」そのために学校・家庭・地域が協働して食育に取り組むことが重要。食の指導の充実→体験活動地場産物の活用などワクワクする実践。給食週間、学校栄養職員による食育レターなど 連携→JA、地元農家、ヨーロッパ野菜、くわいの栽培など

②新潟市学校薬剤師会 小林先生
体育館の照度についての調査報告

調査研究として、問題提起されている。体育館は地域における多様な活動の拠点となる。災害時の避難所、コロナ禍での学習、部活など。予算と業者への連絡など→後回しにされがち

③大阪市立市岡中学校 養護教諭 釘本先生
養護教諭の特性を生かした現代的課題に対する学校家庭地域の連携共同のコーディネート

実態：585名→活躍する生徒がいる一方、不登校・別室登校生徒も一定数いる多様な課題がある。情報発信、校内委員会への参加→生徒理解。郊外機関との連携→大阪市こどもサポートネット。スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・NPOとの情報交換・提供を行う。

課題：若年養護教諭のコーディネーターとしての力をどう育てていくか。

大阪での取り組みでは、保健室へのこどもたちの入退室のICT（情報通信技術）を使用したDx（デジタルトランスフォーメーション）化が進んでおり、どのような子供が保健室に入退室をしているのかが、ほかの職員にもわかる。養護教諭の

保護者との面談への同席がすすんでおり、連携ができています。中学は義務教育の最終段階であり、進路によっては相談先がなくなることも考えられるから、学級担任、保護者は「今ある問題」に注視しがちだが、将来を見据えた相談先をも設定するように動いている。大阪では、大阪市子供サポートネットというシステムがあり、スクリーニングシートにより、学校での状況、家庭、保健室、事務室での状況など、不登校、いじめ、学力、保健、発育、保健室への来室などのDx化と、郊外機関との連携が進んでおり、情報交換が積極的に可能な状況になっている。「チーム学校」の一員として養護教諭の専門性を生かし、学校内外とのコーディネートを行い、養護教諭としての専門性の保持が可能。多面的にとらえ、学校内外をつなげるコーディネーターとしての機能がある。そのために、養護教諭の機能が重要である。

④広島市立可部小学校 校長 岡本先生
学校、家庭、地域の連携協働による学校保健活動

実態：72年にわたる健康教育の取り組み（歴史と伝統）

学校保健委員会、児童会活動を柱としてユニークな実践

連携→学校医、家庭、地域が直接意見交換→発信委員会活動：子供自らが動く→周りが動く（楽しさ・やりがい）

生活リズム調査、食育、（箸の持ち方から）自身の健康手帳、学校歯科医との連携、学校薬剤師との連携（薬物乱用防止）

質問→学校保健委員会の2回、前期と後期での違いなど

⑤福岡市立若宮小学校 養護教諭 八坂先生

多様な豊かな子どもたちをみんなで支える取り組み

実態：96名 多様な家庭環境で逞しく育つ子供達
目標：学校と地域、家庭が連携し、心身共に健康な子供たちの育成をめざす。

地域支援課「タグラグビー」「朝曾比の達人」「体育館リモートストレッチ」

子育て支援会議：子育て支援課、保護課、児童相談所、中学校、SSW、SCなど

CAP（子どもへの暴力防止）プログラム：子供自身、教職員、グリーンコープ生協福岡→朝食サポートをひつようとしている家庭につなげていく→きずき、情報共有と連携。

基本的な生活習慣は、子供の学力保障の土台である。発表母体は、3割が外国籍の子供の学校。

福岡市東区の組織との連携により、コロナ禍のストレス発散につながる運動を行った。タグラグビーや、室外で充分距離をとって運動を行った。福岡市東区体育館スポーツ指導員との連携（ZOOMを使用も含める）、福岡市東区子育て支援課との連携によって子育て支援会議を年2回開催。教職員全員、子育て支援課、保護課、児童相談所職員など。

CAPプログラムの導入（自分で自分を守ったりうまく相談できるスキルを身につける）それだけではない、教職員のワークショップの施行。日常への活用として、教室入り口や黒板の上などに、看板の作成「あんしん」「じしん」「じゆう」など。グリーンコープ生協ふくおかとの連携。朝食摂取せずに学校に来る子供が多かったため、無償で朝食の提供ができるシステムを学校内で作った。成

果としては地域の人材と子供たちがつながったこと、サポートをうまくつなげる事ができたこと、子供たちが権利について学び、教職員の自動理解も高まった、空腹による体調不良の子どもの現象、学力保障につながった、などであった。

課題として、時間や調整役の確保、忘れ物の増加（学校の対応が増える事により、子供の忘れ物が増加する）などがあつた。試行錯誤をしながらのトライを継続する。

⑥その他まとめ

地域保険とは（community health）についての中央教育審議会答申2015年12月12月の情報。1.これからの時代を生き抜く力の育成、2.地域に信頼される学校作り、3.地域住民の主体的な意識への転換、4.地域における社会的な教育基盤の構築、など。

地域保健法による地域保健の理念。地域保健法の基本理念は、高齢化の進展や地域住民の多様化、などに対応する地域の特性および社会福祉等の有機的な連携。

学校保健安全法における地域連携の方では、第十条で地域の医療機関等との連携を、第三十条で地域の関係機関との連携がうたわれている。学校が地域との連携を図る法的根拠を踏まえて、連携が最も大事である。学校実態が様々になってくるなかで、連携と連帯を軸にして、今後の時代を構築していく。あらためて、今回の事例と同様の先生方には、各地域の具体的な連携の実践を紹介していただき、ありがとうございます。各学校が持ちかえり次世代につなげていきましょう。

第73回指定都市学校医研修会に参加して

顧問 鈴木 由一

令和4年6月4日（土）に熊本市医師会主催で眼科、耳鼻咽喉科、内科の3分野で研修会が開催された。私が参加した研修会②耳鼻科では「小児期における後天性難聴および進行性難聴」と題して熊本大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科「中耳疾患・小児難聴」担当医 伊勢 桃子先生が講演されたので報告します。なお、熊本県耳鼻咽喉科医会長 友永和宏先生が座長をされました。

その内容はまず「令和2年1月 耳鼻咽喉科学校

保健の動向」によると2019年度の耳鼻咽喉科健康診断全国定点調査で難聴が疑われた児の割合は「難聴の疑い」とされた小学生の1/3が、中学生は約半数が実際に感音難聴を呈していたとのことであった。このことから学校保健の意義は深いと言える。

続いて学童期・青年期の後天性難聴で留意すべき疾患を挙げられそれぞれについて解説いただいた。また、先天性難聴の原因としてもっとも多いことで知られるのは遺伝性難聴であるが疾患によっては、

後天性に難聴が進行する可能性があるものもある。これらについても各疾患につき解説をされた。小児期に発症する難聴および進行する難聴について知見を深めることは、学校健診に携わるうえで非常に大切であるとのことでした。

最後にCOVID-19感染拡大の状況下ではマスク着

用により口元を見て会話をを行うことが難しかったり、ソーシャル・ディスタンスを保つことやオンライン授業の導入により聞き取りの難しさや聞き直しにくさを感じる児童が多くなることが懸念される。このため、一層話し方の配慮や視覚情報の併用が重要となる、と締め括られました。

第3回 常任理事会

令和4年7月2日 於 事務局

出席者 杉本会長、井本・山内会長、安野専務理事、大久保・川勝・西村・守上各常任理事、嶋元眼科学校医会理事、平杉耳鼻咽喉科専門医会理事、林議長、長村・東道監事、奥村顧問

会長挨拶

<報告事項>

1. 第73回指定都市学校医研修会IN熊本 6/4
奥村顧問・鈴木顧問、柏井先生
2. 第73回指定都市学校保健協議会（WEB）
6/5 杉本・井本・山内・守上
3. 色覚相談 6/7、6/14、6/28
（待機者13名）
4. 精神衛生研究会 6/9
5. ツベルクリン反応検査
接種6/13、判定6/15
於：京都市総合教育センター 西村、守上
接種6/14、判定6/16
於：元有済小学校 大久保
接種6/20、判定6/22
於：京都市総合教育センター
安野、奥村顧問
接種6/21、判定6/23
於：元有済小学校 長村、山内
6. 心臓病相談事業について がくさい病院と協議
6/14 杉本・林 6/22 林
7. 第36回水泳記録会 7/28(木)の中止について
8. 保護者から第三次検尿の問い合わせについて
9. 養護教育研究会、校園長会との懇談会について
10. その他

<協議事項>

1. 全理事会について 8/6
2. 三師会について
3. 新任校医研修会について 3/23(木)
4. 第53回全国学校保健・学校医大会IN盛岡について
5. 大文字駅伝代替大会：全市交流記録会（1,000m走）が令和5年2月12日（日）にたけびしスタジアム京都で開催決定について
6. その他

<関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 7/5、7/12、7/19、7/26
2. 令和4年度 京都市学校医会研修会（WEB）
7/9 15:30～17:00
神尾陽子記念会 発達障害クリニック
院長 神尾 陽子先生
「子どもの心の健康を学校で育て、守る：教育と医療を統合した心の健康支援」
3. 理事会・評議員会 7/12 14:00～
於：京都市総合教育センター
4. 精神衛生研究会 7/14 14:00～
5. 第44回近畿学校保健連絡協議会 7/28
於：栗東芸術文化会館さきら
6. 全理事会 8/6 17:30～
7. 第4回常任理事会 9/3 14:00～
8. その他

お知らせ

京都市学校医会事務局は、8月11日(木)～17日(水)まで夏季休暇とさせていただきます。